

【グランプリ】

エントリーする団体名の名称 金沢市企業局		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 経営企画部経営企画課 小幡
代表者氏名 糸屋 吉廣（金沢市公営企業管理者）		Tel: 076-220-2655 E-mail: k-keiei@city.kanazawa.lg.jp
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 広報部門 ①行政広報部門	事例名 下水道事業PRビデオ「わたしとトイレと女神さま」	

事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）

- ・制作目的
昭和 37 年度に整備に着手した金沢市の下水道は、平成 27 年度に面整備が概成しようとしている。今まさに本格的な維持管理の時代への転換期にある中、衛生的で快適な生活を支えるという下水道の基本的な役割を改めて市民に理解していただき、今後の事業の円滑な実施に資することを目的として制作したものである。
- ・ストーリーのあらまし
水野親子の生活の一場面から、トイレがなくなった場合の不便さを示すことにより、下水道の役割や大切さを表すとともに、下水道の仕組みをわかりやすく説明している。
（脚本 金沢市企業局職員、出演 金沢市企業局職員ほか、時間 12 分 23 秒）
- ・平成 25 年 1 月 18 日にホームページ等で公開したほか、市内の市立小学校 60 校に DVD を配布。
金沢市公式ホームページ <http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11003/movie/index.html>
金沢市企業局ホームページ <http://www2.city.kanazawa.ishikawa.jp/web/movie/index.html>
金沢市公式 Facebook ページ <https://www.facebook.com/CityofKanazawa>
YouTube



普段、マンホールしか目にすることがない下水道。
トイレやキッチン等から排出される汚水はいったいどこへ？
そんな下水道に関する疑問に、このビデオがお答えします。
題して、「わたしとトイレと女神さま」！

彼女の名前は水野清美
「トイレなんて無くてもぜんぜん平気よ！」
彼女の一言が”トイレの女神”の逆鱗に触れる！
直後、彼女の身にとんでもない出来事が！

エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など）

- ・普段目にすることのできない下水道を、視覚的に、かつ、小学生でも理解できる程度のわかりやすい内容で紹介することにより、下水道の役割や大切さを適切に伝えている。
- ・興味をもって視聴してもらえるよう、金沢市の観光スポットを織り交ぜるなどの工夫をしている。
- ・ホームページだけではなく、ソーシャルネットワーキングサービスや動画共有サービスも活用することにより、効果的な情報発信を図っている。

【評価】職員が脚本を手掛け、出演した姿勢を評価。画像サイト「YouTube」を使い、多くの人の目に留まりやすくした工夫、斬新性などにも評価が集まった。

【準グランプリ】

エントリーする団体名の名称 メタウォーター株式会社 表者氏名 代表取締役社長 木田友康	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大瀬良 栄一（経営企画本部 広報部） TEL. 03-6853-7317 E-mail: oosera-eiichi@metawater.co.jp
部門名 広告部門	事例名 全国紙で下水道の役割広告を掲載 分かり易さと見易さで読者97.5%の共感を得ることに成功
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい） 全国770万部を発行する朝日新聞(全国版)でカラー広告を実施。 下水道の役割をカラー広告で全国に発信しました。 ※実施日：2010年7月21日、2011年7月20日の計2回（朝刊にて） ■狙い 下水道の価値PR⇒下水道事業を生業としているメタウォーターの企業価値向上 ⇒生活者や子供に対して下水道事業自体の大切さ、理解の促進 ■読者アンケートを実施。（抽出方法：WEBによるエリアサンプリング、対象：15歳～69歳、以下2010年の抜粋） ・下水道が生活に欠かせないインフラであることに共感した…97.5% （2010年7月21日掲載号） ・日本の高度な技術により川や海の水環境が安全に保たれていることが分かった…97% ※自由回答の回答率97%（記入は任意に関わらず多くの方が） 下水道事業に理解と応援のメッセージをくださった！ ■紙面での訴求ポイント ①汚水は環境に多大な影響を及ぼす ②下水処理水は下流の水道水になっている ③下水道の普及で川に鮎が戻ってきた ④下水道は他のインフラと違い代替がない ⑤下水処理場は資源の宝庫 ⑥下水道展の開催告知 他 ■工夫ポイント ・カラフルなイラストとキャラクターで読者の目を引く ・訴求内容は絞り、関連する行を効果的に配置（文字だらけにしない） ・使用する言葉や表現は易しく（小学生新聞にもほとんどそのまま使用できる程度） ・社名や事業紹介は極力小さくし、広告らしくない広告を作った ・新聞掲載後に増し刷りをして展示会等で配布	
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） ○ 民間企業が下水道界の外側に対し、自社のPRだけではなく、下水道そのものの大切さをPRする広告を製作・出稿した新しい取り組み。 ○ 新聞社と製作協力し下水道の大切さ、機能や恩恵等を1ページに凝縮したポスターのような広告を製作した点。それを1回で終わらせることなく増し刷りし、二次利用した。 ○ 掲載後、小学生の保護者や教員から複数の問い合わせを頂き、絵本を特別に提供し、こういったツールが欲しかったと高評価を頂いた。社員からも家族に自分の仕事の説明が出来て良かったとの声も届いた。	

大人だけでなく、子供たちにも知って欲しいという思いから「朝日新聞」と同じ内容をルビ付きで「朝日小学生新聞」にも掲載しました。⇒



【評価】審査では「実績」が1つのポイントになった。いかに興味のない人の目に留めてもらうかという点において、当事例は多くの読者に分かりやすく下水道を伝えた実績が評価された。

【報道部門・テレビ報道部門賞】

エントリーする団体名の名称 佐賀市上下水道局		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水浄化センター 所長 山 口 徳 雄 電話 0952-22-0181 FAX 28-4562 E-Mail:tkyamaguchi@city.saga.lg.jp
代表者氏名 上下水道局長 金 丸 正 之		
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 報道部門(テレビ報道部門)	事例名 佐賀市・地域に密着した循環型下水道の実現	
事例の概要(適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 下水道広報関係 下水浄化センター【テレビ放送】 1. 9月 4日 STSテレビ 9分間 事業内容紹介 2. 10月 2日 STSテレビ 分間 大臣賞受賞報告 3. 10月 2日 NHKテレビ 分間 大臣賞受賞報告 4. 10月24日 STSテレビ 2分間 城西保育園児による芋ほり 5. 10月24日 NHKテレビ 1分間 城西保育園児による芋ほり 6. 11月 6日 ぶんぶんケーブルテレビ 2分間 信光幼稚園児による芋ほり(10月25日実施したもの) 7. 11月 8日 NHKテレビ 4分間 事業内容紹介 8. 11月 9日 NHKテレビ 九州管内 4分間 (前日と同じ内容で、若干違う) (参考)【新聞報道】 地元紙をはじめ 多数 【雑誌】 エネルギーフォーラム、ヤンマーエネルギーシステム 月刊下水道、 水道公論 など 多数		
エントリー事例の特徴(下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など)		
ポイント ①市民交流が生んだマスコミとの連携 ②下水道職員の日頃からの外部との交流 ③「国土交通大臣賞」を契機とする情報発信機会の創出 ④テレビ報道による連携の広がり ⑤下水道に関する報道を通じて、下水道への理解を深め、接続率を向上させ下水道経営を安定化させる。 海苔養殖・農業利用に適した処理水の有効利用、DBO事業で生産した下水汚泥堆肥の有効利用、農・漁業従事者との連携、高効率の汚泥消化ガス発電の場内利用の取り組み等、「地域に喜ばれる下水道施設」を目指す取り組みを推進。 これらの取り組みが評価され、平成24年度国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」を受賞した。 従来より、市民協働から広がった人との繋がり、下水道関係職員が日ごろから積極的に地元マスコミとの繋がりを作っていたことが功を奏し、取り組みに関するマスコミ露出が増加。マスコミとの緊密な関係性が構築されることで、報道内容についても的確な報道がなされ、市民への情報発信の役割を十分に果たしている。 さらに国土交通大臣賞をきっかけに取材が殺到するようになったことを活かし、九州及び全国に取り組みが長時間発信されるようになった。これにより、全国、さらには世界の下水道・漁業・農業・エネルギー関係者が視察に訪れるようになり、情報発信の相乗効果が生まれている。 我々が採用する技術・取り組みが、国内外に水平展開され、より広く地域・社会に貢献していくため、そして、佐賀市内の下水道利用者に対して下水道事業への認識を深めてもらうため、今後も積極的に「マスコミ」の活用を図っていきたいと考えている。		

【評価】国土交通大臣賞の受賞で終わるのではなく、それを機に多くのメディアに露出させた工夫や姿勢を評価した。

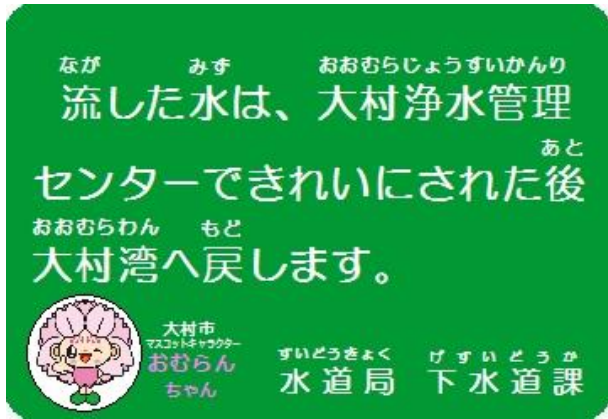
【報道部門・新聞報道部門賞】

エントリーする団体名の名称 メタウォーター株式会社 代表者氏名 代表取締役社長 木田友康	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大瀬良 栄一（経営企画本部 広報部） TEL. 03-6853-7317 E-mail: oosera-eiichi@metawater.co.jp
部門名 報道部門	事例名 他業界とのリレーションにより 産経新聞の連載コラムで下水道の価値PR！
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい） 「全国紙で下水道の知られざる価値や実態を連載コラム記事として発信！」 全国で160万部（朝刊）発行している産経新聞。生活面にはレシピや暮らしの知恵など主婦向けの話題が詰まっています。その中にある「知ってる？！」というコーナーで「もし昔に戻ったら」というタイトルで下水道の価値を訴求する記事が連載されました。 広告代理店や新聞媒体とのリレーションを活かし、下水道の価値を訴求する方法を模索。そして産経新聞の本コラムに出会いました。コラムの狙いと当社の思いが合致し、取材に協力。さまざまな資料と情報を提供し、主婦を読者とする生活面らしく、わかりやすい言葉でコラムが完成しました。 掲載日 ①2011年10月3日（月）、②10日（月）、③17日（月）、④24日（月）、⑤31日（月）の計5回 テーマ ①快適さ支える排水システム（内容は右図） ②震災で分かった大事な役割（電気や水道と違い、下水道は代替が利かない） ③下水道維持に多大なコスト（使用する水の量と処理水が水道水源になっている事実） ④水道料金の請求書を確認しよう（実感されていない下水道料金。実際は約20円/人/日ほど） ⑤役割は増す下水道（快適な生活に欠かせない下水道。もう少し思いをめぐらせては） エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） ○ 全国紙の朝刊に広告ではなく記事として取り上げられたことで、内容の信憑性が高まる。また、記事はネットにもUPされるため、より多くの読者に訴求できた。 ○ 企業が自社製品ではなく、下水道そのもののPRをすることに広告代理店や媒体社の理解と共感を得られたため、本コラムが実現した。他業界との連携の賜物である。 ○ 新聞に水ビジネスが取り上げられることは多いが、主婦層に響く内容ではないことが多い。その点、本コラムは主婦向けの紙面の中で、主婦にわかりやすく下水道について価値や役割を紹介した。	



【評価】コラムで報じられたことが多くの読者をひきつけたのではない。その実現に向けた行動力も素晴らしいと評価した。

【広報部門・行政広報部門賞】

エントリーする団体名の名称 大村市役所水道局下水道課		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 水道局下水道課計画 G 笹島 博幸 Tel 0957-53-1682 Fax 0957-53-1699 E-Mail gesuido@city.omura.lg.jp
代表者氏名 大村市水道事業管理者 福田 和典		
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 行政広報 部門	事例名 下水道の広報を考える(汚水行く先シール)	
事例の概要(適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 《大村市の概要》		
大村市汚水処理人口普及状況 行政人口 92,537 人, 汚水処理人口 91,399 人, 普及率 98.8% 大村市公共下水道 下水道処理区域人口 81,944 人, 普及率 88.6% 大村市農業集落排水事業(全 7 地区完了) 処理区域人口 6,864 人、普及率 7.4% 合併浄化槽 計画区域人口 3,517 人、処理区域人口 2,591 人、普及率 2.8% 下水道課では、毎年 10 名程度の中学生を職場体験として受け入れている。下水道課に来た子供たちを最初にトイレに連れて行き、洗面所の蛇口を開き君たちが汚した水はどこへ行くのかと尋ねると、答えが返ってこない。 本市の汚水処理普及率 98.8%の中で、生まれ育った子供たちは、かつて汚水により汚れた海、川、溝等があったことを知る由もない。自分たちが、汚した水は目の前からただ消えてなくなるだけである。このため、下水道の広報を考えている中、雑誌「水の創造」の中で、NP021 世紀水倶楽部理事 栗原 秀人氏が提案されていた「下水行く先シール」の記事を読み、職員でシールを作成し、小中学校、市役所、出張所のトイレ等に貼ってもらうよう依頼した。 貼付箇所 小学校 13 校、中学校 6 校、市役所、出張所 7 箇所		
 		
エントリー事例の特徴(下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点)		
① トイレ、洗面所等に貼ることにより毎日、目にすることになる。 ② 低コスト： 耐水紙ラベル(8カット20枚入) 購入費 1,359円×20冊=27,180円		

【評価】シールを貼るという非常にシンプルな取り組みで大きな気付きを与えることができる点を評価した。コストをかけずに出来る事例として、全国的な拡がりに期待。

【広報部門・企業団体等広報部門賞】

エントリーする団体名の名称 株式会社 G & U 技術研究センター		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 試験検査部 平山 明彦 電話 049-299-1028 FAX049-299-1026 a-hirayama@gucenter.co.jp														
代表者氏名 代表取締役 中川 幸男																
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】														
部門名 (2) 広報部門 ② 企業・団体広報部門	事例名 見学会や技術広報誌発刊などによる下水道管路施設の 理解向上と適切な維持管理の必要性を啓発															
弊社は、マンホール蓋の試験研究機関として設立されました。蓋業界全体の技術の向上を目指すと共に、一般市民に対して、下水道への理解を深めるための情報伝達に努力しています。蓋の試験を間近に観ることにより、マンホール蓋にどのような問題があるのか、それをどう解決しようとしているのかが視覚的に理解できます。更に、模型、説明用パネル、解説書により理解を深められるよう工夫しております。 来場者は、月2回の定例見学会（無料、一般市民可）の他、自治体からの見学申込など毎月多数を受入れております。 マンホールの存在感を高めるために、マンホールの博物誌(ダイヤモンド社)の出版や、技術的な話題を、多角的にやさしく解説する技術広報誌を発行（年1回）しています。 また、集中豪雨時の内水氾濫やマンホールの浮上問題について、NHKや民放各社の報道に協力や、一般市民向けとして、NP021世紀水倶楽部と共催で、下水道を理解してもらうためのセミナーを毎年開催しており、その講演集を作成し配布（無料）しております。 ＜これまでの見学会への来場者＞ <table border="1"> <tr> <td>来場者数</td> <td>約4000人</td> </tr> <tr> <td>官公庁</td> <td>約350人</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>約1800人</td> </tr> <tr> <td>下水道事業団の研修見学</td> <td>約650人</td> </tr> <tr> <td>市民・学生</td> <td>約100人</td> </tr> <tr> <td>海外からの研修・見学</td> <td>約50人</td> </tr> <tr> <td>その他（民間企業/団体）</td> <td>約1100人</td> </tr> </table>    			来場者数	約4000人	官公庁	約350人	自治体	約1800人	下水道事業団の研修見学	約650人	市民・学生	約100人	海外からの研修・見学	約50人	その他（民間企業/団体）	約1100人
来場者数	約4000人															
官公庁	約350人															
自治体	約1800人															
下水道事業団の研修見学	約650人															
市民・学生	約100人															
海外からの研修・見学	約50人															
その他（民間企業/団体）	約1100人															
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など）																
・ 見学では、集中豪雨の増加や車両の大型化・増加などの側面から下水道管きよに新たな性能が必要なことを、水理モデルや輪荷重試験機などを使って体感できること。 ・ 下水道施設の老朽化が引起す問題や事故を防ぎ、これからも安心して下水道を利用できるように、施設の適切な維持管理が必要なことを、技術広報誌や見学会を通じて情報発信していること。																

【評価】 体感を伴う広報により、多くの来場者に下水道の維持管理の必要性等を伝えた実績を評価した。

【電子媒体部門賞】

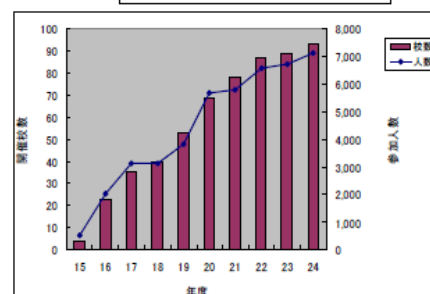
エントリーする団体名の名称 かほく市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 産業建設部上下水道課 藤岡 祐 TEL 076-283-7106 FAX 076-283-7108 E-Mail : fujioka-y@city.kahoku.ishikawa.jp
代表者氏名 市長 油野 和一郎	
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 電子媒体 部門	事例名 最新のIT技術を活用した マンホールからはじめる地域活性化プロジェクト
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい） プロジェクト名：NaKaMa（なんだろう、かほく、マンホール） 【現状と課題】 ・下水道事業が抱える問題 市民が抱える下水道のイメージは、『くさい、きたない』 → 重要なインフラにもかかわらず、常に日陰の存在 ・地元企業/商店が抱える問題 景気の低迷により『売上が伸びない』 【プロジェクト概要】 民間企業、商店が自由な発想で考案したデザインマンホールカバーを製作し、かほく市に寄贈 カバーには最新のIT技術を活用しスマートフォンをかざすと動画再生する機能を付加 ↓ かほく市は、寄贈を受けたデザインカバーを、各駅周辺に設置 （蓋の更新工事にあわせて実施） 市がマンホールふたを設置  企業がカバーを製作し寄贈 アプリケーションイメージ  専用アプリを起動して マンホールにかざすと、 PR広告が起動   各店舗にて商品の購入 売上のアップ！！	
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） 地元企業や商店と連携し、下水道施設の唯一の顔であるマンホールふたをデザインしてもらい、さらには、スマートフォンを活用した動画再生機能（AR広告）を付加することで、地元企業、商店、下水道事業のイメージアップや、設置箇所である駅周辺の賑わい創出など、官民双方に相乗効果をもたらすものとしている。	

【評価】取り組みの面白さが際立っていて、IT化が進むこれからの時代性にもマッチすると評価した。

【審査委員特別賞】

エントリーする団体名の名称 浜松市		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 上下水道部下水道工事課 鈴木秀俊 電話053-474-7524 Fax053-474-7616
代表者氏名 浜松市長 鈴木康友		
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 広報部門 自治体広報部門	事例名 姿の見える下水道の取組	
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい） 浜松市では「姿の見える下水道」の取組として、「みんなの下水道教室」の取組を中心として平成15年度より10年間継続して以下の内容で取組んでいます。 1. みんなの下水道教室 平成15年度より実施しており、小学校で好評を得るとともに下水道の理解の向上につながり、下水道の正しい使い方、接続率の向上についての効果が見込まれることから、翌年度より全小学校を対象に実施しています。 2. みんなの下水道コンクール 平成16年度より小学生を対象に「標語」「絵画・ポスター」のコンクールを開催しています。優秀作品に関しては、8月第一日曜日に住吉庁舎で開催の上下水道フェスタにて表彰しています。受賞作品は下水道広報看板や工事説明会資料等に掲載し、下水道のPRに活用しています。 3. はままつ下水道新聞 平成16年度より9月10日の下水道の日に年1回発行しています。下水道に関する内容で小学生でも理解できるような易しい内容で作成し、小学校、図書館などで掲示し、下水道に対する関心が深まるようにしています。 4. アマゴの放流 (日本一きれいな川目指して、小学生によるアマゴの放流) 平成15年度より天竜区春野町の小学校4年生による「アマゴ」の放流を行い、同時に付近の河川清掃も行っています。 5. 下水道工事現場のイメージアップコンクール 平成16年度より下水道工事現場において、下水道工事の情報発信や、地域への貢献活動、環境負荷低減などの取組みに対して優秀な工事現場を対象としてコンクールを実施しており、下水道工事の円滑な施工、環境負荷の低減などに貢献しています。		
事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） 1. 「みんなの下水道教室」は平成15年度より継続して実施し年々実施校が増加しており、現在では市内小学校開催率が非常に高く、小学校での開催が定着しており、市内全域での活動を行っています。 平成24年度の実績 学校数 (94/105校 90.4%) 学級数 (239/247クラス 96.8%) 児童数 (7267/7425人 97.8%) 2. 自主作成の学習教材を下水道教室開催後の自宅で保護者と共に再学習することをねらい配布している。 3. 積極的に実施についての報道発表を行い、テレビや新聞の報道を通じて下水道のPRに役立っています。		

開催状況の推移グラフ



庁舎入り口の掲示看板

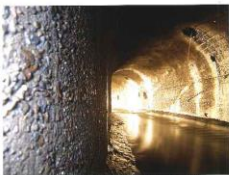
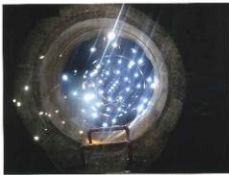


あまご放流の様子

みんなの下水道
学習教材

【評価】市内の90%以上の学校に定着している実績を評価した。

【審査委員特別賞】

エントリーする団体名の名称 一般社団法人 東京都下水道工事専門業者協会 代表者氏名 会長 星 壮七		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 富田 寛敦 TEL 03-3279-4381 FAX03-32798-0193 Eメール soumubu@gesuidou-mente.jp
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 広報部門 ②企業団体等広報 部門	事例名 写真集 「とうきょうちかみち」	
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)		
 一次選考通過—風景 光る下水道  内部は暗い下水道も作業中は灯照射に明るくなっています 地上と下水道  マンホールから撮影。まるで天窓が開いているような新しい光でした マンホールの内から見たスカイツリー  東京の標高のマンホールから市街地を見下ろす。スカイツリーが目の前に見える。これぞ「地下と地上のつながり」を証明した 最優秀賞—風景 歴史感じる下水道  レンガ造りの空間です。写真が対称に写り込んでいました		

【評価】現場で働く人たちが撮影した写真を使って構成した着眼点などを評価した。

【会員投票特別賞】

エントリーする団体名の名称 株式会社 G & U 技術研究センター		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 試験検査部 平山 明彦 電話 049-299-1028 FAX049-299-1026 a-hirayama@gucenter.co.jp														
代表者氏名 代表取締役 中川 幸男																
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】														
部門名 (2) 広報部門 ② 企業・団体広報部門	事例名 見学会や技術広報誌発刊などによる下水道管路施設の 理解向上と適切な維持管理の必要性を啓発															
弊社は、マンホール蓋の試験研究機関として設立されました。蓋業界全体の技術の向上を目指すと共に、一般市民に対して、下水道への理解を深めるための情報伝達に努力しています。蓋の試験を間近に観ることにより、マンホール蓋にどのような問題があるのか、それをどう解決しようとしているのかが視覚的に理解できます。更に、模型、説明用パネル、解説書により理解を深められるよう工夫しております。 来場者は、月2回の定例見学会（無料、一般市民可）の他、自治体からの見学申込など毎月多数を受入れております。 マンホールの存在感を高めるために、マンホールの博物誌(ダイヤモンド社)の出版や、技術的な話題を、多角的にやさしく解説する技術広報誌を発行（年1回）しています。 また、集中豪雨時の内水氾濫やマンホールの浮上問題について、NHKや民放各社の報道に協力や、一般市民向けとして、NP021世紀水倶楽部と共催で、下水道を理解してもらうためのセミナーを毎年開催しており、その講演集を作成し配布（無料）しております。 ＜これまでの見学会への来場者＞ <table border="1"> <tr> <td>来場者数</td> <td>約4000人</td> </tr> <tr> <td>官公庁</td> <td>約350人</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>約1800人</td> </tr> <tr> <td>下水道事業団の研修見学</td> <td>約650人</td> </tr> <tr> <td>市民・学生</td> <td>約100人</td> </tr> <tr> <td>海外からの研修・見学</td> <td>約50人</td> </tr> <tr> <td>その他（民間企業/団体）</td> <td>約1100人</td> </tr> </table>    			来場者数	約4000人	官公庁	約350人	自治体	約1800人	下水道事業団の研修見学	約650人	市民・学生	約100人	海外からの研修・見学	約50人	その他（民間企業/団体）	約1100人
来場者数	約4000人															
官公庁	約350人															
自治体	約1800人															
下水道事業団の研修見学	約650人															
市民・学生	約100人															
海外からの研修・見学	約50人															
その他（民間企業/団体）	約1100人															
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など）																
・ 見学では、集中豪雨の増加や車両の大型化・増加などの側面から下水道管きよに新たな性能が必要なことを、水理モデルや輪荷重試験機などを使って体感できること。 ・ 下水道施設の老朽化が引起す問題や事故を防ぎ、これからも安心して下水道を利用できるように、施設の適切な維持管理が必要なことを、技術広報誌や見学会を通じて情報発信していること。																

【評価】 会員投票の結果、最も多くの票を集めた。広報部門・企業団体等広報部門賞とのダブル受賞。

参考資料 2 その他のエントリー事例

エントリーする団体名の名称 日立市企業局上下水道部下水道課 代表者氏名 下水道課長 小林賢治 担当者氏名、所屬、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道課 吉田俊幸 電話：0294(35)3178 Fax：0294(36)4440 E-mail：kigyog-gesui@city.hitachi.lg.jp	（他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称	部門名 テレビ報道 部門 事例名 ・ケーブルテレビを活用した「日立の下水道・インフォーマーシャル」の放送 番組名：ひたち生活ガイド(30分番組のうち5分) 放送時間：毎日 午前8時・午後3時・7時	事例の概要(適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 	エントリー事例の特徴(下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) ・市内全域を網羅しているCATV(JWAY日立)を活用し、現在の下水道事業の機能・役割等を分かり易く市民に提供するため、インフォーマーシャルとして番組を制作し放送している。 ・ホームページ等パソコン媒体ではないため、ケーブルTVという特性を利用し、直接お茶の間に、パソコンを利用しないお年寄りなどにも情報を提供することができる。 ・番組の制作は、製作会社等に委託せず、構成、文章、そしてナレーション等は企業局職員が担当し、手作りで作成している。 ・企業局では、同じように上水道事業番組を作成し、隔月で放送を行っており、繰り返し放送することにより市民への浸透を図っている。 ・今後は、適宜に放送内容を変える予定であり、現在はVer.1である。
エントリーする団体名の名称 広島市下水道局 代表者氏名 下水道局長 片平 靖 担当者氏名、所屬、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道局施設部計画調整課 広森 源太 電話 082-504-2414 Fax：082-504-2429 E-mail：hiromori-g@city.hiroshima.lg.jp	（他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称	部門名 テレビ報道部門 事例名 広島市のローカル番組から発信する浸水対策事業 ～人気お笑い芸人による地下トンネル潜入～	広島市の中心市街地は、地盤が低く、近年の都市化の進展により雨水が浸透する空き地などが減少したことに伴い、雨水が一気に下水道管に流れ込むようになり、また、局所的な豪雨に下水道の排水能力が対応できていないため、各地区で浸水被害が発生しています。 現在、中心市街地では、雨水ポンプ場や雨水幹線、雨水貯留管の整備に取り組んでいます。 今回応募するテレビ報道は、平成24年1月29日に広島市のローカル番組「元就。」で広島市の浸水対策事業として整備している雨水幹線が取り上げられました。番組内では、人気お笑い芸人アンガールズの田中さんが、シールド工法で設置した雨水幹線の中に入り、広島市下水道局の工事担当者から説明を受けています。 浸水対策事業は、ハード整備やソフト整備のほか、市民自らが浸水の危険度を把握し、被害軽減につながるよう、自助による対策も重要となります。そういった意味で、今回の放送された内容は、地域と一体となって行う浸水対策の重要性をローカル番組から発信しています。  【平成24年1月29日放送 RCCテレビ「元就。」】	なお、広島市担当者とアンガールズの田中さんの会話がテンポの良い漫才のようになっている、楽しんで視聴できる内容となっています。 ※テレビ映像について、RCCテレビに問い合わせたところ、芸能人が出演しているため映像の使用制限があると返答をいただいた点にご留意ください。 もし、映像の使用許可に関して、GKP事務局からRCCテレビに問い合わせる場合は、広島市下水道局にもご一報ください。 エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） ・ローカル番組から発信 ・人気お笑い芸人の出演による話題性 ・浸水被害が頻発している地区の対策を紹介

エントリーする団体名の名称 広島市下水道局	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道局施設部計画調整課 広森 源太 電話 082-504-2414 Fax : 082-504-2429 E-mail : hiromori-g@city.hiroshima.lg.jp
代表者氏名 下水道局長 片平 靖	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称
部門名 テレビ報道部門	事例名 頻発するゲリラ豪雨からの脱却
広島市の中心市街地は、地盤が低く、近年の都市化の進展により雨水が浸透する空き地が減少したことに伴い、雨水が一気に下水道管に流れ込むようになり、また、局所的な豪雨に下水道の排水能力が対応できていないため、各地区で浸水被害が発生しています。 現在、中心市街地では、雨水ポンプ場や雨水幹線、雨水貯留管の整備に取り組んでいます。 こうした状況の中、平成24年度は広島市中心部において、局所的な豪雨により、7月に2回、8月に1回、11月に1回、床上・床下浸水や道路冠水などが発生しました。 浸水被害が短期間に頻発したことから、平成24年8月27日にはローカルテレビのニュースにおいて、特に浸水被害が多い地区の整備が、平成25年度の梅雨時期までに終える予定であることを市民に発信しています。 浸水被害に係るニュースでよく取り沙汰されるのは、浸水対策の整備が遅れていることを強調するなど行政側の対応を批判する内容となります。しかしながら、今回のニュースでは、浸水対策の整備を終えても、計画能力を大幅に上回るような降雨があった場合、浸水被害の発生が予測されるため、各家庭や地域一体となった自助による取り組みを行っているただけるよう働きかけています。	
	
【平成24年8月27日放送 広島ホームテレビ「Jステーション」】	
※映像の使用許可について、広島ホームテレビに承諾いただいています。 エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） ・具体的な浸水対策施設（雨水ポンプ場、雨水幹線）の紹介 ・ローカルテレビを通じて、広島市下水道局職員による浸水対策の取り組みを説明 ・自助による対策の有効性を啓発	

エントリーする団体名の名称 猪名川町まちづくり部下水道課	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 都築 正史 上下水道課 suido@town.inagawa.lg.jp
代表者氏名 猪名川町長 福田 長治	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称
部門名 行政広報	事例名 いなぼうと学ぼう！下水道のしくみ
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）   	
猪名川町で使われた水は、どこへいくんだろう！？ 下水道のしくみや下水道の正しい使い方について、いなぼうと一緒に学んでいく番組を制作し、インターネットストリーミング配信Youtubeを利用して広く町民などに向けた広報配信をしております。 Youtube公開日：平成24年9月28日 YoutubeURL：http://www.youtube.com/watch?v=J7KR68aAvog	
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） 下水道面整備を終えた猪名川町では、維持管理の時代へと運ってきており、とりわけ家事でよく下水道を利用される主婦層の皆様に理解していただけるように当町のゆるキャラ“いなぼう”とコラボし、子どもと楽しく下水道を学べる番組を制作した点が優れています。	

エントリーする団体の名称 財団法人愛知水と緑の公社 代表者氏名 鬼頭 昌子 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部管理課 電話：052-971-3045 FAX：052-971-3053 E-mail：awg-g-i@pluto.plala.or.jp	エントリーする団体の名称 財団法人愛知水と緑の公社 代表者氏名 鬼頭 昌子 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部管理課 電話：052-971-3045 FAX：052-971-3053 E-mail：awg-g-i@pluto.plala.or.jp
部門名 (2) 広報部門①行政広報部門	部門名 (2) 広報部門①行政広報部門
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) ポンプ・ブロー・ミキサーの運転停止操作を行ったり、ポンプの運転時に漏水発生し、配管の修理も体験できる装置を作成し、下水道お仕事体験として各種イベントで子供たちに体験してもらっている。	事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 名古屋文理大学健康学部健康栄養学科1年生の調理実習で下水道の特別講義を行った。内容は下水道の概要説明と、調理実習で作成した種ゆで汁とチャージャー煮汁のパックテストの実施、片付けで布で拭き取りを行いを行った場合と通常洗いの場合の排水をシンクに溜めて排水負荷量調査を行った。
写真①お仕事体験装置 	写真①下水道概要説明  写真②バックテスト  写真③拭き取り洗いと通常洗いの排水負荷量調査  写真④拭き取り洗い  写真⑤通常洗い  写真⑥拭き取り洗いと通常洗いのシンクの状態 
写真②イベントでの体験の様子1  写真③イベントでの体験の様子2  写真④イベントでの体験の様子3 	写真②イベントでの体験の様子1  写真③イベントでの体験の様子2  写真④イベントでの体験の様子3 
エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) 浄化センターでの夏休みの親子下水道教室や下水道フェア、愛知県下水道科学館の夏祭り等さまざまなイベントで活用できる。 下水道お仕事体験では、子供たちに楽しみながら下水道に興味を持ってもらうことができる。	エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) 将来は管理栄養士として働く学生に向けて、下水道や水環境について考えてもらおう機会となっている。 拭き取り洗いと通常の洗い方で、シンクに汚れを溜めて行なったことで、学生には負荷が目に見える形となり、調理過程及び片付けで汚れを流していることを実感してもらえらる。 学生から、家庭や調理実習等で節水や排水負荷低減の取り組みを実践していきたいとの意見が寄せられ、普及啓発効果が高いと言える。

エントリーする団体の名称 財団法人愛知水と緑の公社	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道管理課 電話：052-971-3045 FAX：052-971-3053 E-mail：awg-g-j@pluto.plala.or.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道管理課
代表者氏名 鬼頭 昌子	代表者氏名 山口 稔	代表者氏名 加山 俊夫
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	上記団体を推薦する団体の名称	上記団体を推薦する団体の名称
部門名 (2) 広報部門①行政広報部門	事例名 エコレシビと親子料理教室	事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 名古屋文理大学と下水道や水環境に優しいエコレシビ (25 種) を共同開発した。油の使用を抑える等排水負荷の低減となったり、調理器具の使用回数を減らす等水の使用量を減らす内容となっている。 エコレシビを使用し、一般の方向けに親子料理教室を開催したり、エコレシビのチラシを各浄化センターや愛知県下水道科学館、名古屋文理大学、その他イベントで配付している。
写真①下水道概要説明	写真②エコクイズ	写真③調理風景
写真④食事風景	エコレシビのチラシ (表)	エコレシビのチラシ (裏)

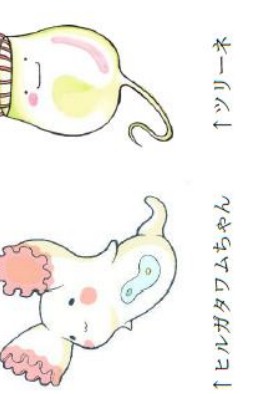
エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など)
レシビや料理教室といった主婦の関心が高いものを通して、普及啓発を行っている。
料理教室の感想では、調理中や調理後の排水についても考えていきたいという意見や、エコレシビを実践して排水負荷低減に努めたいとの意見がでており、高い普及啓発効果がみられた。

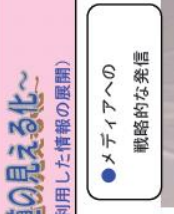
エントリーする団体の名称 相模原市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 土木部下水道整備課計画班 担当課長 山口 稔 電話 042-769-8271 ファクス 042-754-1068 E-mail gesui-seibi-2@city.sagamihara.kanagawa.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道管理課
代表者氏名 相模原市長 加山俊夫	代表者氏名 山口 稔	代表者氏名 加山 俊夫
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	上記団体を推薦する団体の名称	上記団体を推薦する団体の名称
部門名 行政広報 部門	事例名 「広報さがみはら」における下水道特集記事の掲載	事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 「マンホールの下に広がる世界」をテーマに、下水道の役割や、下水道の仕組み、下水道の歴史、下水道の未来について、市民生活に密着した形で、下水道の価値を伝える。また、下水道の仕組みや、下水道の歴史、下水道の未来について、市民生活に密着した形で、下水道の価値を伝える。
マンホールの下に広がる世界	マンホールの下に広がる世界	マンホールの下に広がる世界

エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など)
・市内一円で行っている下水道事業を平易な文章、イラスト及び写真を使用し、市民生活における下水道の必要性を、わかりやすく示すことができた。
・比較的大規模な雨水管の写真を大きく掲載し、普及入ることのできる雨水管内部の様子、管きょの規模や深さを視覚的に伝えることができた。

エントリする団体の名称 愛知県 豊田市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 上下水道局 下水道建設 加地 攻 TEL:0565-34-6624 , FAX:0565-34-0226 E-Mail:g_kensetu@city.toyota.aichi.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 上下水道局 下水道建設 加地 攻 TEL:0565-34-6624 , FAX:0565-34-0226 E-Mail:g_kensetu@city.toyota.aichi.jp
代表者氏名 豊田市事業管理者 横地 清明	代表者氏名 豊田市事業管理者 横地 清明	代表者氏名 豊田市事業管理者 横地 清明
エントリする団体の名称 名古屋上下水道局	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 名古屋上下水道局企画部主幹 杉本 充伸 電話 052-972-3719 FAX 052-972-3710 E-mail m_sugimoto.00@jogesuido.city.nagoya.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 名古屋上下水道局企画部主幹 杉本 充伸 電話 052-972-3719 FAX 052-972-3710 E-mail m_sugimoto.00@jogesuido.city.nagoya.lg.jp
代表者氏名 上下水道局長 長谷川 和司	代表者氏名 上下水道局長 長谷川 和司	代表者氏名 上下水道局長 長谷川 和司
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称
部門名 広報部門	行政広報部門	行政広報部門
事例名 名古屋上下水道100周年事業	事例名 名古屋上下水道100周年事業	事例名 名古屋上下水道100周年事業
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)	事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)	事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)
(1) 上下水道100周年事業について 下水道供用開始100周年(平成24年)について、水道給水開始100周年(平成26年)とともに、平成23年から26年まで既存の事業の枠組みを活用して、一体的・連続的に100周年事業を展開	(1) 上下水道100周年事業について 下水道供用開始100周年(平成24年)について、水道給水開始100周年(平成26年)とともに、平成23年から26年まで既存の事業の枠組みを活用して、一体的・連続的に100周年事業を展開	(1) 上下水道100周年事業について 下水道供用開始100周年(平成24年)について、水道給水開始100周年(平成26年)とともに、平成23年から26年まで既存の事業の枠組みを活用して、一体的・連続的に100周年事業を展開
(2) 基本コンセプト 「100年の歴史を礎に、つないでいこう信頼の絆」 100年の歴史を検証、継承するとともに、これからの100年を見据えて安心・安全で安定した事業の持続的な経営に取り組む姿勢を示し、お客さまからの信頼を深める契機として事業を実施	(2) 基本コンセプト 「100年の歴史を礎に、つないでいこう信頼の絆」 100年の歴史を検証、継承するとともに、これからの100年を見据えて安心・安全で安定した事業の持続的な経営に取り組む姿勢を示し、お客さまからの信頼を深める契機として事業を実施	(2) 基本コンセプト 「100年の歴史を礎に、つないでいこう信頼の絆」 100年の歴史を検証、継承するとともに、これからの100年を見据えて安心・安全で安定した事業の持続的な経営に取り組む姿勢を示し、お客さまからの信頼を深める契機として事業を実施
(3) 実施した下水道100周年事業の概要 (平成23年～24年) ① 主なイベント ☆水の環コンサート(23年8月、24年11月) 水環境保全等のPRのため水にちなんだ名曲コンサートを開催 ☆歴史写真展(24年1月、6～12月) 市内18ヶ所下水道の創設期からの写真・資料の展示会を開催 ☆下水道訪問授業(24年4～7月) 若手職員が96の小学校で上下水道と100周年について授業を実施 ☆下水道絵画コンクール・作品展(24年7～12月) 小中学生対象、217の応募作品から17作品を表彰 ☆100周年記念式典(写真上)(24年11月)「水の天使」を活用し、先人の功績をたたえる顕彰式や記念講演を実施	(3) 実施した下水道100周年事業の概要 (平成23年～24年) ① 主なイベント ☆水の環コンサート(23年8月、24年11月) 水環境保全等のPRのため水にちなんだ名曲コンサートを開催 ☆歴史写真展(24年1月、6～12月) 市内18ヶ所下水道の創設期からの写真・資料の展示会を開催 ☆下水道訪問授業(24年4～7月) 若手職員が96の小学校で上下水道と100周年について授業を実施 ☆下水道絵画コンクール・作品展(24年7～12月) 小中学生対象、217の応募作品から17作品を表彰 ☆100周年記念式典(写真上)(24年11月)「水の天使」を活用し、先人の功績をたたえる顕彰式や記念講演を実施	(3) 実施した下水道100周年事業の概要 (平成23年～24年) ① 主なイベント ☆水の環コンサート(23年8月、24年11月) 水環境保全等のPRのため水にちなんだ名曲コンサートを開催 ☆歴史写真展(24年1月、6～12月) 市内18ヶ所下水道の創設期からの写真・資料の展示会を開催 ☆下水道訪問授業(24年4～7月) 若手職員が96の小学校で上下水道と100周年について授業を実施 ☆下水道絵画コンクール・作品展(24年7～12月) 小中学生対象、217の応募作品から17作品を表彰 ☆100周年記念式典(写真上)(24年11月)「水の天使」を活用し、先人の功績をたたえる顕彰式や記念講演を実施
② 展示施設等の整備 ☆下水道の歴史メモリアルゾーン(写真下) 昭和5年に日本で初めて活性汚泥法を導入した堀留水処理センターに、当時から保存されている旧処理施設を映像で学び、旧反応タンク等の実物を見てもらえる見学コースや記念モニュメントを整備・設置するなど、下水道の歴史を市民が実感できる空間を創出 ☆下水道科学館のリニューアル 参加・体験型施設としてのいっそうの充実のため、展示物を更新 ③ 事業史などの作成 100年の歴史を綴る下水道事業百年史や、浸水対策の歴史なごや水物語～雨に強いまちづくり編、歴史映画下水道100年の歴史、子ども向け下水道啓発漫画スクープを追え!徳種くんの不思議な下水道の旅を作成 ④ 職員向け事業の実施 職員の意識啓発のため100年の豆知識発掘や100周年特別賞を設けての記念論文の募集等を実施	② 展示施設等の整備 ☆下水道の歴史メモリアルゾーン(写真下) 昭和5年に日本で初めて活性汚泥法を導入した堀留水処理センターに、当時から保存されている旧処理施設を映像で学び、旧反応タンク等の実物を見てもらえる見学コースや記念モニュメントを整備・設置するなど、下水道の歴史を市民が実感できる空間を創出 ☆下水道科学館のリニューアル 参加・体験型施設としてのいっそうの充実のため、展示物を更新 ③ 事業史などの作成 100年の歴史を綴る下水道事業百年史や、浸水対策の歴史なごや水物語～雨に強いまちづくり編、歴史映画下水道100年の歴史、子ども向け下水道啓発漫画スクープを追え!徳種くんの不思議な下水道の旅を作成 ④ 職員向け事業の実施 職員の意識啓発のため100年の豆知識発掘や100周年特別賞を設けての記念論文の募集等を実施	② 展示施設等の整備 ☆下水道の歴史メモリアルゾーン(写真下) 昭和5年に日本で初めて活性汚泥法を導入した堀留水処理センターに、当時から保存されている旧処理施設を映像で学び、旧反応タンク等の実物を見てもらえる見学コースや記念モニュメントを整備・設置するなど、下水道の歴史を市民が実感できる空間を創出 ☆下水道科学館のリニューアル 参加・体験型施設としてのいっそうの充実のため、展示物を更新 ③ 事業史などの作成 100年の歴史を綴る下水道事業百年史や、浸水対策の歴史なごや水物語～雨に強いまちづくり編、歴史映画下水道100年の歴史、子ども向け下水道啓発漫画スクープを追え!徳種くんの不思議な下水道の旅を作成 ④ 職員向け事業の実施 職員の意識啓発のため100年の豆知識発掘や100周年特別賞を設けての記念論文の募集等を実施
(4) 100周年事業のPR ◇一般市民の参加(公募)によるシンボルマークの決定とバナー・刊行物等への活用(右図) ◇市長定例記者会見の活用など積極的な情報提供によるマスコミへの露出追求 ◇ウェブ上の名古屋上下水道100周年サイトやFacebook(期間限定)による情報発信 ◇職員の「歩く広告塔」化(名札、ピンバッジ、名刺、PRジャンパーの活用)によるPR	(4) 100周年事業のPR ◇一般市民の参加(公募)によるシンボルマークの決定とバナー・刊行物等への活用(右図) ◇市長定例記者会見の活用など積極的な情報提供によるマスコミへの露出追求 ◇ウェブ上の名古屋上下水道100周年サイトやFacebook(期間限定)による情報発信 ◇職員の「歩く広告塔」化(名札、ピンバッジ、名刺、PRジャンパーの活用)によるPR	(4) 100周年事業のPR ◇一般市民の参加(公募)によるシンボルマークの決定とバナー・刊行物等への活用(右図) ◇市長定例記者会見の活用など積極的な情報提供によるマスコミへの露出追求 ◇ウェブ上の名古屋上下水道100周年サイトやFacebook(期間限定)による情報発信 ◇職員の「歩く広告塔」化(名札、ピンバッジ、名刺、PRジャンパーの活用)によるPR
エントリ事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) ○ 歴史的意義の高い下水道資産を活用し、その「見える化」を図るなど、普段、一般市民の目に触れにくい下水道について、その歴史と役割が体感的に理解されるよう創意工夫 ○ 水道・下水道両事業について、一体的・連続的に展開し、水道のイベントでも下水道をPR ○ 既存のイベントや整備事業の枠組みを最大限に活用して効率的にPR ○ 基本コンセプトの下、市民と職員に向けて多様な歴史検証・紹介事業や現在・将来の事業の紹介・提案事業等を統一的に展開 ○ インターネット利用の普及に対応し、ウェブサイトやSNSを活用して事業の最新情報を総合的にPR	エントリ事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) ○ 歴史的意義の高い下水道資産を活用し、その「見える化」を図るなど、普段、一般市民の目に触れにくい下水道について、その歴史と役割が体感的に理解されるよう創意工夫 ○ 水道・下水道両事業について、一体的・連続的に展開し、水道のイベントでも下水道をPR ○ 既存のイベントや整備事業の枠組みを最大限に活用して効率的にPR ○ 基本コンセプトの下、市民と職員に向けて多様な歴史検証・紹介事業や現在・将来の事業の紹介・提案事業等を統一的に展開 ○ インターネット利用の普及に対応し、ウェブサイトやSNSを活用して事業の最新情報を総合的にPR	エントリ事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) ○ 歴史的意義の高い下水道資産を活用し、その「見える化」を図るなど、普段、一般市民の目に触れにくい下水道について、その歴史と役割が体感的に理解されるよう創意工夫 ○ 水道・下水道両事業について、一体的・連続的に展開し、水道のイベントでも下水道をPR ○ 既存のイベントや整備事業の枠組みを最大限に活用して効率的にPR ○ 基本コンセプトの下、市民と職員に向けて多様な歴史検証・紹介事業や現在・将来の事業の紹介・提案事業等を統一的に展開 ○ インターネット利用の普及に対応し、ウェブサイトやSNSを活用して事業の最新情報を総合的にPR

エントリーする団体の名称 福岡市 代表者氏名 福岡市長 高島 宗一郎 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 道路下水道局総務部営業課 戸畑 沙織 電話092-711-4507 Fax 092-733-5596 tobata.s01@fukuoka.city.lg.jp (他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 道路下水道局博多駅地区浸水対策室 担当者：徳富 電話 092-711-4526 Fax 092-711-4466 E-Mail h-shimsu@city.fukuoka.lg.jp (他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称
部門名 広報部門①行政広報部門 事例名 「下水道フェア福岡inギヤナル」の開催	部門名 広報部門①行政広報部門 事例名 雨水整備レインプラン博多 主要施設完成
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 1. 日 時 平成24年8月26日 (日) 10:00~17:00 2. 会 場 キャナルシティ博多 (博多区住吉1-2)、ぼんブラザ (博多区祇園町8-3) 3. 内 容 (1) 楽しく学ぶ・授業ステージ 局職員・大学生 (先生役) と、お笑い芸人 (生徒役) によるパラエティスタイルのステージ。親子も生徒役で参加し、下水・雨水・河川について授業形式で事業等を紹介。 (2) 体験して学ぶ・体験コーナー 「水質実験・微生物観察」「廃油石けんのシャボン玉作り」「オリジナルマンホール缶パッチ作り」「運河バックヤードツアー」を実施。 (3) マンホールデザイン表彰式 応募総数327点の中から優秀賞1点を表彰。 (4) ぼんブラザPRコーナー 常設パネル展示と、大学生によるミニ水族館「水辺の生き物ウォッチング」を実施。 (5) スタンブラー 3つ体験すると、ぼんブラザで景品と交換。 18,758人 (3年目で最多) 2社より取材があり、 当日のニュースで放送。 4. 来場者数 5. 報 道	事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 九州・アジアの玄関口として、多くの都市機能が集まった博多駅周辺地区では、平成11年と平成15年の二度にわたり大きな浸水被害が発生した。 このため三度の浸水を防ぐよう、平成16年度から、雨水を一時的に地下に貯める施設や地面にしみ込ませる施設を取り入れた総合的な浸水対策事業である「雨水整備レインプラン博多」の施設整備に着手し、平成24年5月末に主要施設が完成、博多駅周辺地区が平成11年と同じ大雨にも耐えられる浸水しにくい安全なまなまとなったことを、様々な手法を用いPRしたものの、 3万トン雨水貯留管、排水ポンプ場 浸水被害防ぐ施設完成 平成11年6月29日 博多駅地下街入口 平成24年6月8日 主要施設完成記念式典 エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) ○産学官一体となった下水道広報の実施 集客力の高い大型商業施設で開催することで多くの市民にPRできるとともに、キャナルシティ博多の雨水・下水の再利用事業を見学することで、普段見えにくい下水処理施設を身近に感じてもらえた。また「はかたわん海探隊」の参加により、企業や行政以外の活動紹介等を通して、環境保護の大切さもPRできた。 【キャナルシティ博多】 雨水は運河に利用し、飲食店から出た厨房排水は施設内で処理しトイレの洗浄水に再利用している。 【はかたわん海探隊】 福岡大学工学部社会デザイン工学科 (土木専攻) の学生25名からなるボランティア団体。博多湾の環境保全を目的に、樋井川・室見川を中心に定期清掃や地域の子供たちを対象とした環境学習会を実施している。http://blogs.yahoo.co.jp/gagelard

エントリーする団体名の名称 小平市 担当者氏名 下水道課長 對馬 建一 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 加藤 千秋（環境部下水道課） Tel 042-326-7411 Fax 042-326-9266 E-mail gesuido@city.kodaira.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 加藤 千秋（環境部下水道課） Tel 042-326-7411 Fax 042-326-9266 E-mail gesuido@city.kodaira.lg.jp
（他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 行政広報 部門	事例名 ふれあい下水道館
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい） 汚水整備の完了を機に、下水道に関する資料を展示し、下水道を正しく理解してもらうための施設として平成7年に開館した。普段は見ることのできない下水道を直接体験できる貴重な施設であり、環境学習の場として特に小学4年生の社会科見学として（平成23年度は市内・市外から43校3,356名の方が見学された）多くの人に利用されている。  ↑建物外観  ↑ヒルガタワムちゃん ↑ツリーネ  ↑地下5階の下水道管 ↑学習講座の様子	エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） 下水道の日に合わせた下水道デー（平成24年度は環境フェスティバル）、小学生を対象にした学習講座、中学生以上を対象にした講話会等を開催し、幅広い年代の人が楽しめるイベントと各世代に特化したアプローチを合わせて行っている。ヒルガタワムちゃん等微生物をモチーフにしたマスコットキャラクターも親しまれており、平成24年3月から配布された市役所の窓口封筒にもキャラクターを用いたふれあい下水道館のデザインが採用された。

エントリーする団体名の名称 福岡市 代表者氏名 福岡市長 高島 宗一郎 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 道路下水道局建設部中部下水道課 特田 浩紀 電話：092-711-4698 Fax：092-733-5533	（他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称
部門名 広報部門①行政広報部門	事例名 雨水整備レインボーブラン天神における下水道の見える化
事例の概要 見えない下水道の見える化 本市では、「市民の方々の共感と納得」を得るため、積極的・効果的な情報発信に取り組んでいます。下水道は、都市計画、道路と同様に重要な施設ではあるものの、完成しても市民の方の目に触れないことから、下水道の重要性を知ってもらうため、雨水整備水準を強化したインフラ整備で下水道の“見える化”を進めています。  施工中の中環7号幹線内部  社会インフラの重要性  質の高い行政サービス	レインボーブラン天神 現在、平成11年の水管を契機に市民の方や観光客などの多くの人が集まり、都市機能が集積する都心の天神周辺地区で、「レインボーブラン天神」と称し、都心部の安全・安心の基盤づくりを積極的に進めています。 ～見えない下水道の見える化～ （いろいろな広報手段を利用した情報の展開） ●夏休み下水道トンネルたんけん隊 ●福岡チャネル（福岡市動画配信サイト） ●メディアへの戦略的な発信 ●海外留学生対象の現場見学会     エントリー事例の特徴 下水道インフラの価値を高めるには、まず下水道をよく知ってもらうことが大事です。それが事業の推進に必要な市民の方々との合意形成の上で「納得」が「納得」に変わるはず。この取り組みは、いろいろな広報手段を有効に活用して、市民の方々にだけ限らない、年齢層を問わない、気軽にタイムリー、といった要素を取り入れた情報発信で下水道のイメージアップや市役所の信頼向上につながるきつかけに考えています。

エン트리ーする団体名の名称 金沢市企業局		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 経営企画部経営企画課 小幡 Tel: 076-220-2655 E-mail: k-keiei@city.kanazawa.lg.jp	
代表者氏名 糸屋 吉廣（金沢市公営企業管理者） （他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】	
部門名 広報部門 ①行政広報部門	事例名 都市ガスと上下水道の情報誌「Yous」		
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）			

下水道使用料よくあるご質問Q&A

Q1 金沢市の下水道使用料は他の都市と比べて高いの？

月20m使用時の下水道使用料を比較すると、県内市町平均より281円安く、中核市平均よりは159円高くなっています。（左下表参照）
本市と中核市平均とで下水道使用料の経費を比較すると、施設・管路等の維持管理費は、本市の方が低いです。建設に関する経費では、逆に高くなっており、結果、下水道使用料は中核市平均より高くなっています。（右下表参照）
建設に関する経費が高いのは、本市が短期間で急速に下水道を整備してきたことにより、借入金の返済などが多いことによるからです。
なお、本市は、既に高い普及率となっているため、今後、建設に関する経費は増加しない見込みです。

月20mの下水道使用料比較

項目	金沢市	中核市平均	県内市町平均
建設に関する経費	1,670円 66%	1,375円 58%	1,855円 65%
施設・管路等の維持管理費	860円 34%	996円 42%	956円 44%

● 月20mは家庭用の平均使用量

● 上記の数値は、左表の「月20mの下水道使用料」に総原価（平成22年度下水道事業費等）を「下水道使用料の概算」の分率に照準して算出したもの

- ・趣旨
読者の方（下水道利用者）が普段疑問に思っていることを、分かりやすく説明することで、納得したうえで下水道を利用してもらうため
- ・内容
金沢市の下水道整備の特徴、下水道Q&A（他都市と比べて下水道使用料が高い理由など）
・広報
平成24年10月に金沢市内全戸（約20万部）配布したほか、金沢市企業局HPに掲載
http://www2.city.kanazawa.lg.jp/web/about/about_public_03_yous19.html

エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など）

- ・金沢市の下水道使用料が、他の中核市と比べて高いことについて、金沢市の下水道整備の特徴などとあわせて説明することにより、読者の方の理解を得られた点（アンケート結果による）。

エン트리ーする団体名の名称 鳥取県生活環境部水・大気環境課		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 森本 健一 電話（0857）26-7401 メール morimotok@pref.tottori.jp	
代表者氏名 水・大気環境課長 広田一恭 （他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】	
部門名 行政広報	事例名 下水道の日		
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）			

- ・下水道の日を前に、「下水道の現状と課題、及び施設を一般開放すること」についての情報発信を行った。
- ・多くの鳥取県民が購読している日本海新聞（H23末県内購読率8割）において、鳥取県は、毎月2回「鳥取県からのお知らせ」を掲載している。（全5段広告）
- ・広報にあたっては、県財政が危機的な状況であることから、最小の費用で最大の効果を発揮すべく、下水道部門単独での広報ではなく上記の広告枠を利用することとした。
- ・掲載日当日には、さっそく県民から施設見学会の申し出があり、広報の効果が現れた。

☆記事の概要☆
「鳥取県からのお知らせ／8月23日版」

！案内 9月10日は「下水道の日」です
美しい水環境を未来へ引き継ぐため、下水道を知ってください。

■ご存知ですか？
○県内に整備された下水道管の長さは、約3,500km。
（鳥取からベトナムまでの直線距離とほぼ同じ長さ）
○古くなった下水道管は、調査して耐震化などの工事を行います。
○ご家庭では、廃油やゴミなどを下水道に流さないでください。

■施設見学会
○市町村では、下水道を知っていただくために見学会を行っています。
○見学希望など詳しくは、最寄りの市町村又は下記までお問い合わせください。

問合せ先 県庁水・大気環境課
☎0857-26-7401
<http://www.pref.tottori.lg.jp/2027.htm>

エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など）
鳥取県内においては、過去に同様の広報は行っておらず、今回が初めての広報となった。

エントリーする団体名の名称 横浜市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 黒羽根 能生(環境創造局下水道事業調整課) TEL 045-671-2840 FAX 045-664-0571 E-Mail:yo00-kurobane@city.yokohama.jp	エントリーする団体名の名称 横浜市 代表者氏名 横浜市長 林 文子 E-Mail:yo00-kurobane@city.yokohama.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 黒羽根 能生(環境創造局下水道事業調整課) TEL 045-671-2840 FAX 045-664-0571 E-Mail:yo00-kurobane@city.yokohama.jp	エントリーする団体名の名称 横浜市 代表者氏名 横浜市長 林 文子 E-Mail:yo00-kurobane@city.yokohama.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 黒羽根 能生(環境創造局下水道事業調整課) TEL 045-671-2840 FAX 045-664-0571 E-Mail:yo00-kurobane@city.yokohama.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 黒羽根 能生(環境創造局下水道事業調整課) TEL 045-671-2840 FAX 045-664-0571 E-Mail:yo00-kurobane@city.yokohama.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 黒羽根 能生(環境創造局下水道事業調整課) TEL 045-671-2840 FAX 045-664-0571 E-Mail:yo00-kurobane@city.yokohama.jp
エントリーする団体名の名称 兵庫県明石市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	エントリーする団体名の名称 明石市 代表者氏名 明石市長 泉 房穂 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp
エントリーする団体名の名称 兵庫県明石市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	エントリーする団体名の名称 明石市 代表者氏名 明石市長 泉 房穂 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道部 下水道建設課 露木 康弘 TEL: 078-918-5051 FAX: 078-918-5128 E-Mail: gkensetu@city.akashi.lg.jp

エントリーする団体名の名称 広島市下水道局 代表者氏名 下水道局長 片平 靖	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道施設設計計画調整課 広森 源太 電話 082-504-2414 Fax : 082-504-2429 E-mail : hiromori@g.city.hiroshima.lg.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 新潟市下水道部 経営企画課 綾里 梅田 電話025-226-2963 FAX025-228-2209 keiei.ps@city.niigata.lg.jp
部門名 行政広報部	事例名 地域活性化を目指したデザインマンホールの製作 ～広島市内の大学と連携した活動～	事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等挿入して下さい） 広島市では、下水道事業のPR活動の一環として、マンホール鉄ふたの表面をデザイン化した「デザインマンホール」の設置に取り組んでいます。デザインの制作は、広島市立大学芸術学部（依頼し、制作していただいた複数のデザイン案の中から、公共施設として必要な条件（安全性、耐久性、経済性等）等を考慮して決定しています。 デザインマンホールの設置は、費用対効果の観点から、対象地区を絞り込み、市内の名称や玄関口などを対象に、地区ごとにテーマをもったマンホール鉄ふたのデザインを制作しています。なお、制作したデザインマンホールは、対象区域内における下水道施設の改築工事に併せ、歩道部にはカラーデザイン、車道部には無着色デザインで順次設置しています。
部門名 行政広報部	事例名 地域活性化を目指したデザインマンホールの製作 ～広島市内の大学と連携した活動～	新潟県内に広く親しまれ、高い支持を得ているBSN新潟放送の番組内で、下水道PRコーナーを設け、中堅職員が生出演し、親しみやすさと分かりやすさをモットーに、下水道事業をPRした。 1 放送期間 平成24年8月15日～9月5日の毎週水曜日 2 コーナー設置番組「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・BSN新潟放送「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・時間は午後3時40分から概ね5分間 ・主なターゲット …主婦層、営業車で移動中の営業マンなど 3 コーナーの構成 （1）職員の自己紹介…番組パーソナリティーから職員の印象や人柄、趣味なども引き合いに出してもらい、親しみやすさをPR。 （2）本日のテーマ…各回ごとに出演職員の業務内容からテーマを設けてトーク （3）本日の「みずたま川柳」…水玉ほうし役の女性職員が下水道川柳を披露 4 コーナーの各回内容 【第1回】「下水道って、なんなんだ？」 下水道建設に携わる技術職員の、下水道のしくみや大切な役割（汚水処理・雨水排水）を分かりやすく解説。東日本大震災発生時に救援活動に派遣された際の体験談をまじえ、下水道の大切さを訴えた。 【第2回】「キーワードは3年！下水道の接続は早めがオススメ！」 日ごろ、水酸化普及業務に従事する職員が、下水道への早期接続を促した。 「下水道部のマジシャン」との紹介で、コーナー冒頭趣味のマジックを披露するとともに、二児の父として地球環境の保全に大きく関わる下水道への接続の大切さを情熱的に語った。 【第3回】「下水道まつりへ行こう！」 新採用2年目でまだ初々しさの残る職員が、下水道事業運営に欠かせない使用料収入のしくみと、空週に開催される「下水道まつり」について、日々のエピソードをまじえ、さわやかにPRした。 【第4回目】「ミスター下水道 下水道の未来を語る」 新潟一の下水道愛を自負する下水道部長が自ら出演し、近年、新潟市が取り組む再生可能エネルギーの活用をはじめとした「下水道の未来」を語り、より地球にやさしく進化する下水道の新たな側面をPRした。
部門名 行政広報部	事例名 地域活性化を目指したデザインマンホールの製作 ～広島市内の大学と連携した活動～	新潟県内に広く親しまれ、高い支持を得ているBSN新潟放送の番組内で、下水道PRコーナーを設け、中堅職員が生出演し、親しみやすさと分かりやすさをモットーに、下水道事業をPRした。 1 放送期間 平成24年8月15日～9月5日の毎週水曜日 2 コーナー設置番組「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・BSN新潟放送「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・時間は午後3時40分から概ね5分間 ・主なターゲット …主婦層、営業車で移動中の営業マンなど 3 コーナーの構成 （1）職員の自己紹介…番組パーソナリティーから職員の印象や人柄、趣味なども引き合いに出してもらい、親しみやすさをPR。 （2）本日のテーマ…各回ごとに出演職員の業務内容からテーマを設けてトーク （3）本日の「みずたま川柳」…水玉ほうし役の女性職員が下水道川柳を披露 4 コーナーの各回内容 【第1回】「下水道って、なんなんだ？」 下水道建設に携わる技術職員の、下水道のしくみや大切な役割（汚水処理・雨水排水）を分かりやすく解説。東日本大震災発生時に救援活動に派遣された際の体験談をまじえ、下水道の大切さを訴えた。 【第2回】「キーワードは3年！下水道の接続は早めがオススメ！」 日ごろ、水酸化普及業務に従事する職員が、下水道への早期接続を促した。 「下水道部のマジシャン」との紹介で、コーナー冒頭趣味のマジックを披露するとともに、二児の父として地球環境の保全に大きく関わる下水道への接続の大切さを情熱的に語った。 【第3回】「下水道まつりへ行こう！」 新採用2年目でまだ初々しさの残る職員が、下水道事業運営に欠かせない使用料収入のしくみと、空週に開催される「下水道まつり」について、日々のエピソードをまじえ、さわやかにPRした。 【第4回目】「ミスター下水道 下水道の未来を語る」 新潟一の下水道愛を自負する下水道部長が自ら出演し、近年、新潟市が取り組む再生可能エネルギーの活用をはじめとした「下水道の未来」を語り、より地球にやさしく進化する下水道の新たな側面をPRした。
部門名 行政広報部	事例名 地域活性化を目指したデザインマンホールの製作 ～広島市内の大学と連携した活動～	新潟県内に広く親しまれ、高い支持を得ているBSN新潟放送の番組内で、下水道PRコーナーを設け、中堅職員が生出演し、親しみやすさと分かりやすさをモットーに、下水道事業をPRした。 1 放送期間 平成24年8月15日～9月5日の毎週水曜日 2 コーナー設置番組「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・BSN新潟放送「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・時間は午後3時40分から概ね5分間 ・主なターゲット …主婦層、営業車で移動中の営業マンなど 3 コーナーの構成 （1）職員の自己紹介…番組パーソナリティーから職員の印象や人柄、趣味なども引き合いに出してもらい、親しみやすさをPR。 （2）本日のテーマ…各回ごとに出演職員の業務内容からテーマを設けてトーク （3）本日の「みずたま川柳」…水玉ほうし役の女性職員が下水道川柳を披露 4 コーナーの各回内容 【第1回】「下水道って、なんなんだ？」 下水道建設に携わる技術職員の、下水道のしくみや大切な役割（汚水処理・雨水排水）を分かりやすく解説。東日本大震災発生時に救援活動に派遣された際の体験談をまじえ、下水道の大切さを訴えた。 【第2回】「キーワードは3年！下水道の接続は早めがオススメ！」 日ごろ、水酸化普及業務に従事する職員が、下水道への早期接続を促した。 「下水道部のマジシャン」との紹介で、コーナー冒頭趣味のマジックを披露するとともに、二児の父として地球環境の保全に大きく関わる下水道への接続の大切さを情熱的に語った。 【第3回】「下水道まつりへ行こう！」 新採用2年目でまだ初々しさの残る職員が、下水道事業運営に欠かせない使用料収入のしくみと、空週に開催される「下水道まつり」について、日々のエピソードをまじえ、さわやかにPRした。 【第4回目】「ミスター下水道 下水道の未来を語る」 新潟一の下水道愛を自負する下水道部長が自ら出演し、近年、新潟市が取り組む再生可能エネルギーの活用をはじめとした「下水道の未来」を語り、より地球にやさしく進化する下水道の新たな側面をPRした。
部門名 行政広報部	事例名 地域活性化を目指したデザインマンホールの製作 ～広島市内の大学と連携した活動～	新潟県内に広く親しまれ、高い支持を得ているBSN新潟放送の番組内で、下水道PRコーナーを設け、中堅職員が生出演し、親しみやすさと分かりやすさをモットーに、下水道事業をPRした。 1 放送期間 平成24年8月15日～9月5日の毎週水曜日 2 コーナー設置番組「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・BSN新潟放送「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・時間は午後3時40分から概ね5分間 ・主なターゲット …主婦層、営業車で移動中の営業マンなど 3 コーナーの構成 （1）職員の自己紹介…番組パーソナリティーから職員の印象や人柄、趣味なども引き合いに出してもらい、親しみやすさをPR。 （2）本日のテーマ…各回ごとに出演職員の業務内容からテーマを設けてトーク （3）本日の「みずたま川柳」…水玉ほうし役の女性職員が下水道川柳を披露 4 コーナーの各回内容 【第1回】「下水道って、なんなんだ？」 下水道建設に携わる技術職員の、下水道のしくみや大切な役割（汚水処理・雨水排水）を分かりやすく解説。東日本大震災発生時に救援活動に派遣された際の体験談をまじえ、下水道の大切さを訴えた。 【第2回】「キーワードは3年！下水道の接続は早めがオススメ！」 日ごろ、水酸化普及業務に従事する職員が、下水道への早期接続を促した。 「下水道部のマジシャン」との紹介で、コーナー冒頭趣味のマジックを披露するとともに、二児の父として地球環境の保全に大きく関わる下水道への接続の大切さを情熱的に語った。 【第3回】「下水道まつりへ行こう！」 新採用2年目でまだ初々しさの残る職員が、下水道事業運営に欠かせない使用料収入のしくみと、空週に開催される「下水道まつり」について、日々のエピソードをまじえ、さわやかにPRした。 【第4回目】「ミスター下水道 下水道の未来を語る」 新潟一の下水道愛を自負する下水道部長が自ら出演し、近年、新潟市が取り組む再生可能エネルギーの活用をはじめとした「下水道の未来」を語り、より地球にやさしく進化する下水道の新たな側面をPRした。
部門名 行政広報部	事例名 地域活性化を目指したデザインマンホールの製作 ～広島市内の大学と連携した活動～	新潟県内に広く親しまれ、高い支持を得ているBSN新潟放送の番組内で、下水道PRコーナーを設け、中堅職員が生出演し、親しみやすさと分かりやすさをモットーに、下水道事業をPRした。 1 放送期間 平成24年8月15日～9月5日の毎週水曜日 2 コーナー設置番組「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・BSN新潟放送「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・時間は午後3時40分から概ね5分間 ・主なターゲット …主婦層、営業車で移動中の営業マンなど 3 コーナーの構成 （1）職員の自己紹介…番組パーソナリティーから職員の印象や人柄、趣味なども引き合いに出してもらい、親しみやすさをPR。 （2）本日のテーマ…各回ごとに出演職員の業務内容からテーマを設けてトーク （3）本日の「みずたま川柳」…水玉ほうし役の女性職員が下水道川柳を披露 4 コーナーの各回内容 【第1回】「下水道って、なんなんだ？」 下水道建設に携わる技術職員の、下水道のしくみや大切な役割（汚水処理・雨水排水）を分かりやすく解説。東日本大震災発生時に救援活動に派遣された際の体験談をまじえ、下水道の大切さを訴えた。 【第2回】「キーワードは3年！下水道の接続は早めがオススメ！」 日ごろ、水酸化普及業務に従事する職員が、下水道への早期接続を促した。 「下水道部のマジシャン」との紹介で、コーナー冒頭趣味のマジックを披露するとともに、二児の父として地球環境の保全に大きく関わる下水道への接続の大切さを情熱的に語った。 【第3回】「下水道まつりへ行こう！」 新採用2年目でまだ初々しさの残る職員が、下水道事業運営に欠かせない使用料収入のしくみと、空週に開催される「下水道まつり」について、日々のエピソードをまじえ、さわやかにPRした。 【第4回目】「ミスター下水道 下水道の未来を語る」 新潟一の下水道愛を自負する下水道部長が自ら出演し、近年、新潟市が取り組む再生可能エネルギーの活用をはじめとした「下水道の未来」を語り、より地球にやさしく進化する下水道の新たな側面をPRした。
部門名 行政広報部	事例名 地域活性化を目指したデザインマンホールの製作 ～広島市内の大学と連携した活動～	新潟県内に広く親しまれ、高い支持を得ているBSN新潟放送の番組内で、下水道PRコーナーを設け、中堅職員が生出演し、親しみやすさと分かりやすさをモットーに、下水道事業をPRした。 1 放送期間 平成24年8月15日～9月5日の毎週水曜日 2 コーナー設置番組「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・BSN新潟放送「ゆるWAVE」（午後3時～5時30分） ・時間は午後3時40分から概ね5分間 ・主なターゲット …主婦層、営業車で移動中の営業マンなど 3 コーナーの構成 （1）職員の自己紹介…番組パーソナリティーから職員の印象や人柄、趣味なども引き合いに出してもらい、親しみやすさをPR。 （2）本日のテーマ…各回ごとに出演職員の業務内容からテーマを設けてトーク （3）本日の「みずたま川柳」…水玉ほうし役の女性職員が下水道川柳を披露 4 コーナーの各回内容 【第1回】「下水道って、なんなんだ？」 下水道建設に携わる技術職員の、下水道のしくみや大切な役割（汚水処理・雨水排水）を分かりやすく解説。東日本大震災発生時に救援活動に派遣された際の体験談をまじえ、下水道の大切さを訴えた。 【第2回】「キーワードは3年！下水道の接続は早めがオススメ！」 日ごろ、水酸化普及業務に従事する職員が、下水道への早期接続を促した。 「下水道部のマジシャン」との紹介で、コーナー冒頭趣味のマジックを披露するとともに、二児の父として地球環境の保全に大きく関わる下水道への接続の大切さを情熱的に語った。 【第3回】「下水道まつりへ行こう！」 新採用2年目でまだ初々しさの残る職員が、下水道事業運営に欠かせない使用料収入のしくみと、空週に開催される「下水道まつり」について、日々のエピソードをまじえ、さわやかにPRした。 【第4回目】「ミスター下水道 下水道の未来を語る」 新潟一の下水道愛を自負する下水道部長が自ら出演し、近年、新潟市が取り組む再生可能エネルギーの活用をはじめとした「下水道の未来」を語り、より地球にやさしく進化する下水道の新たな側面をPRした。

エントリーする団体名の名称 東京都下水道局総務部広報サービス課 代表者氏名 広報サービス課長 井上 佳昭		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 担当者氏名 金井 孝朗 所属 東京都下水道局 総務部広報サービス課 電話 03-5320-6515	
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】	
部門名	行政広報 部門	事例名	Twitterの開設
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等挿入して下さい） 平成24年12月20日より、下水道局公式ツイッターアカウントの運用を開始した。公式アカウントでは、下水道局の取組やイベント情報など、皆さまに役立つ情報を随時発信。 1 ユーザー名：@tocho_gesuido 2 ツイートする内容 （1）局が実施する各種イベント情報 ア 各局が主催する各種イベント情報 イ 局が実施する各種キャンペーン情報 ウ 広報施設のイベント情報 エ その他 （2）お客さまに密接に関連する情報 ア 悪質な訪問業者などの情報 イ 災害時における下水道施設の状態などの情報 ウ その他 （3）その他情報 ア 下水道のしくみ・役割等のPR（アースくんツイート） イ 下水道モニター等の各種募集 ウ その他 3 ツイート内容 平成24年12月20日 このたびは東京都下水道局はツイッターを始めました。東京都下水道局からの報道発表やお知らせなどをツイートしていきます。皆様、どうぞよろしくお願ひします。 平成25年4月10日 【アースくんのつぶやき】下水道のいろんなことを紹介するよ！ 下水道は、主に下水道管・ポンプ所・水再生センターの3つの施設から成り立っているよ。下水道管は、東京中に張り巡らされていて、その長さは23区だけで、なんと！東京とシドニーを往復する距離に相当する約1万6千kmにも及ぶんだ。			
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） わかりやすい情報発信として、Twitterを活用し、下水道の価値を高めていく。また、広報機能の強化や防災対策、2020年夏季五輪の招致活動にも役立てている。			

エントリーする団体名の名称 東京都下水道局総務部広報サービス課 代表者氏名 広報サービス課長 井上 佳昭		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 担当者氏名 金井 孝朗 所属 東京都下水道局 総務部広報サービス課 電話 03-5320-6515	
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】	
部門名	行政広報 部門	事例名	東京下水道新たな半世紀 キックオフイベント2013
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等挿入して下さい） 1 主旨 東京都下水道局は、昨年、昭和37年の局発足から50周年を迎えた。そこで、局の新たな半世紀のスタートに当たり、51年目となる今年を「東京下水道新たな半世紀キックオフイベント2013」として、新たな施設開設の式典や各イベントを一つの冠の下にシリーズ化し、下水道事業の取組を都民の皆さまにアピールするとともに、東京下水道50年史を発行するなど下水道のプレゼンスを高める。 2 該当イベント 第1弾 「練馬区中村地区浸水対策施設」完成記念式典 平成25年2月 4日（月） 第2弾 旧三河島汚水処分場噴筒場施設一般公開記念式典 平成25年4月 5日（金） 第3弾 東京都虹の下水道館リニューアルオープン式典 平成25年4月20日（土） 第4弾 世界初の最新技術を導入！「浅川水再生センター」ボ型流動焼却炉完成式典 平成25年4月26日（金） 第5弾 下水道技術実習センターオープンニングセレモニー 平成25年夏予定 第6弾 北多摩一号・南多摩水再生センター 平成25年秋予定 3 内容 （1）共通ロゴを作成し、各イベントの横断幕に使用 （2）イベント用のぼりを作成 （3）50年史の作成			
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） 東京下水道新たな半世紀キックオフイベント2013の取組により、都民の皆様には下水道の「応援団」になっていただくことのほか、職員の広報パーソンとしての資質を向上させていく。さらに、下水道局職員が培ってきた歴史、伝統等を改めて共通認識し、これからの下水道事業の可能性を共有する。			

エントリーする団体名の名称 黒部Eサービズ株式会社		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 電話：03-6830-9028 FAX：03-5479-8592 Mail：itoh.takaharu@swing-w.com	
代表者氏名 伊東 隆治	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		
部門名 (2) ②広報・団体等広報部門	事例名 アメニティー施設「ばいお〜ゆ」の開設		
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)			
当施設（足湯）は、平成23年5月から一般市民に公開され暑い夏の日も雪が降り風吹く北陸の真冬も、9時から20時まで一年中無料開放された黒部浄化センター内のアメニティー施設です。 温水の燃料は黒部浄化センターに併設されたPFI施設の下水汚泥と近隣のコーヒークロスを原料です。原料をメタン発酵槽にいれ消化発酵させるとバイオガスが発生します。このバイオガスには下水汚泥の臭いもコーヒークロスの臭いもありません。バイオガスで沸かしたお湯は足湯「ばいお〜ゆ」に流されます。 当浄化センターの総合公園や総合体育センター、アクアパークに車や徒歩で来られ、ひと時の会話や北アルプスの壮大な山並みを目の前にしながらの足湯を楽しんだ方が1万人を超えました（自主的に記名した方の合計）。 今の時期は、冬バケーションとして足湯をテントですっぽり覆っています（見た目モンゴルのゲルです）ので雪深い黒部ですがこの足湯は別世界です。 詳細は、HPをご覧ください。 ホームページアドレス http://www.kurobe-e.com/			
エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など)			
黒部市は下水汚泥の有効活用としてメタン発酵施設の公募を行い、黒部Eサービズが選定されました。当社は地域貢献として足湯を提案し「ばいお〜ゆ」として市民に還元しています。市民はインフラ施設とアメニティ施設で往き復りの受益者と理解者となることでしよう。水と水が交じあう場所は人と人が集う場所となり益々発展する事業としたい。			

エントリーする団体名の名称 東京都下水道局総務部広報サービズ課		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 担当者氏名 金井 孝朗 所属 東京都下水道局 総務部広報サービズ課 電話 03-5320-6515	
代表者氏名 広報サービズ課長 井上 佳昭	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		
部門名 行政広報 部門	事例名 東京都虹の下水道館リニューアルオープン		
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)			
虹の下水道館は、平成9年4月にオープンしたが、10年以上経過し展示物の老朽化等の課題に直面していたので、より効果的で魅力的な広報施設とするため再整備を行い、名称を「東京都虹の下水道館」に変更し平成25年4月にリニューアルオープンする。 1 基本コンセプト ～どかと感動！下水道～ ・普段目にする事が少ない実際の下水道管やポンプ設備などを展示し、「東京都虹の下水道館」でしか見学・体験することができない空間を創出することで、下水道の役割や水環境の大切さを伝える。 ・「下水道の歴史」や「最先端の技術」など、子供から大人まで来館者の興味にあわせて展示物を自由に選択して見学できるオーダーメイドコンテンツやワークショップなど、さまざまな企画により、下水道への理解を深めていただく。 2 施設・コンテンツ概要 ①下水道管（取付管、枝線） 住宅から排出された水が取付管をとり下水道管（枝線）に流れるところ演出 ⇒下水道管をピカピカにしよう！（高圧洗浄体験） ②下水道管（幹線） 下水道管を実物演出、老朽化した下水道管内に再現、下水道管更生を上演 ⇒下水道管（幹線）を“たんけん”しよう！（下水道管更生体験） ③水再生センター（ポンプ室、中央監視室、水質検査室） ポンプ室に実物大の電動機、冷却用配管及び操作盤、中央監視室に系統パネルや操作卓を設置して再現 ⇒パイプをつないでポンプを動かそう！（ポンプ修理体験） ⇒まちを大雨から守ろう！（ポンプ運転体験） ⇒び生物を観察しよう！（水質検査体験） ④レインボーションマ 映像でなければ見ることがの難しい下水道の一面を紹介 など			
エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など)		 	
エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) 本物の仕事道具や展示されている実物を使ったお仕事体験、展示空間を仕事体験のフィールドとし、展示室全体を使って下水道を体験する「下水道職員なりきり体験」を実施。子供たち以下水道の仕事を体験してもらい、楽しみながら下水道を理解していただく。			

エントリーする団体名の名称 NPO法人21世紀水倶楽部	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 阿部恭二・21世紀水倶楽部 (環境新聞社「月刊下水道」編集部 Tel. 03-3357-2301、Fax. 03-3351-1939、 E-mail. abek@kankyo-news.co.jp)	代表者氏名 理事長 亀田泰武	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称 他業界等とのコラボによる研究集会・出前講座	部門名 企業・団体広報部門 事例名 事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) トイレ業界や排水設備業界から協力を得て、下水道のみならず、トイレや排水設備等他業界とも関連するテーマで研究集会を実施した。また、生活クラブ東京が主催する連続講座に、出前講座として参加し、一般市民である組合員を対象に、地元に着した講演や施設見学会を行った。 ①研究集会「災害時のトイレ確保と下水道の役割」(平成24年7月11日、砂防会館別館) 東日本大震災等大災害時のトイレの状況や災害時のトイレの備えなどについて日本トイレ研究所や国交省、浦安市、東京都、横浜市に報告してもらい、災害時のトイレ確保の考え方や下水道とトイレとの連携のあり方などについて参加者を交えて議論した。 ②連続研究集会「排水設備と取付管の今日的課題」(平成25年1月30日、3月27日、財下水道新技術推進機構) 下水道システムとしての排水設備や取付管等の基準や問題点などについて日本下水道協会、下水道アドバイザー、日本建築設備診断機構に紹介してもらい、下水道、排水設備、排水設備メンテナンス事業者等の参加者を交えて今後の改善の方向性について活発な議論を行った。 ③生活クラブの学校「いのちと水の連続講座」第4回「私たちが流した水はどこへいくのか」座学と施設見学(平成24年8月9～10日、生活クラブ館、森ヶ崎水再生センター等) 生活クラブ東京主催の「いのちと水の連続講座」において、主婦、世田谷区職員、各地の議員、小学生等29名を対象に、家庭等から排水される下水がどこへ行くのか座学でわかりやすく説明するとともに、その流れを実地に公共マス、枝管、幹線、水再生センターをたどりながら見学した。 災害時のトイレの研究集会 出前講座の実地見学 排水設備の研究集会 エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) 他業界とのコラボにより、他業界に対して下水道の重要性をアピールできたのではないかとと思われる。特に災害時トイレの研究集会では浦安市の講演者等から「トイレは下水道の入口」等の発言があり、トイレ、下水道の両業界からの参加者がそのことを再認識した。また、排水設備の研究集会では、下水道と排水設備の連携の必要性が再認識された。さらに出前講座では、自らが排出した水の行方を知ってもらうことで、一般市民等の下水道に対する認識が深まったのではないかとと思われる。参加者から「使った水をここまできれいにしているんだき、ありがたいです」「トイレを流す度にありがたうと言うようにしています」などという貴重な感想が得られた。
--	--	---------------------------	---	--

エントリーする団体名の名称 公益社団法人日本下水道管理業協会	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 事務局長 山田 二郎 電話: 03-3865-3461 Fax: 03-3865-3463 E-Mail: yamada@jascoma.com	代表者氏名 会長 長谷川 健司	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称 他業界等とのコラボによる研究集会・出前講座	部門名 企業・団体 事例名 事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) (2) 広報部門 ②企業・団体 共有できて使い易い教材「クイズで学ぼう! 下水道管のお仕事」等広報部門 事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい) 今まで無かった「下水道管・マンホール等の仕組みや役割、維持管理の仕事、そこで働く人」に焦点を当てた、楽しく学べる下水道教材 小学3～4年生が理解できる内容に分かりやすく楽しくまとめました。 【構成】 ・プロジェクターで映せ、かつ共有しやすい電子データ。 ・オリジナルキャラクターを使って視覚的に楽しい構成。 ・クイズを解きながら、飽きずに学べる内容。 【主な内容】 ・普段目に触れない「下水が通る道」を、イラストで再現。 ・もし下水道管が無くなってしまったら? など、想像力をかき立てるクイズ(8問)と写真・絵で分かりやすい解説。 ・なぜ下水道管の維持管理が大切なのか、その理由を、働く人の姿とともに紹介。 今後は本協会のHPPだけでなく、さまざまな機関・団体にリンクをお願いするなど、データの共有を働きかけていきます。 共有しやすい電子データ そのまゝ授業等に使える電子紙芝居式 エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など) 従来の下水道PRには以下の課題があった ・出前授業や見学会では下水処理の話が中心となる (下水道管に割く時間は極めて少ない) ・このため、家庭の排水口から処理場までの間が分らない ・学校教育等で使える教材が乏しい (特に管路施設設の分りやすい教材は極めて少ない) 以上のことから、下水道管の教材を作成。処理場見学会等で活用していただく。 【選択式クイズの一例】「もし下水道管が無くなったら?」「マンホールは何のためにある?」「日本一大きな下水道管は?」など (いずれも3～4つの答えから選択するクイズです)
---	---	----------------------------	---	--

エン트리ーする団体の名称 メタウォーター株式会社 代表者氏名 代表取締役社長 木田友康		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-mail】 中村 亮平 電話 090-5591-4921 E-mail fwhe0655@mb.infoweb.ne.jp 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-mail】	
部門名 企業広報部門	事例名 エコプロダクツへの出展	“生態系持続システム プランクトンブランド” http://homepage2.nifty.com/nakamuraRyouhei/PP.htm	
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい） 下水道公社水質担当職員、浄化槽検査員の職歴を持つ者です。これまでで汚水処理施設の現場を多く見てきました。その中で得られた汚水処理の新たな方向性のアイデアを個人のホームページで紹介しています。これは、汚水を生態系資源として扱い、自然生態系の活性化を図ろうとするものです。仕事柄、下水処理場、農集、浄化槽等の汚水処理施設を多く見る機会があり、現場の様々な事例を集めることができる立場にあります。新たな視点で汚水処理を見ることができると、新しい発見はとて多いです。それをホームページにまとめています。			
下水により運ばれる物質量は膨大な量になります。これを廃棄物として捨てるのではなく、生態系の循環に組み入れることができれば、生態系に循環する物質そのものを大幅に増大させることができ、水産資源の増大等相当な効果が期待できます。このように大規模で積極的に環境を作出すことは、恐らく環境技術に全く新しい分野を作り出すことになり、海に囲まれ自然豊かで水量も多い国上を持ち、人口密度が高く下水道網が整備されている日本は、これを行なうには最も適している国だと思います。これに日本の持つ下水道や浄化槽の技術を使えば、日本独自の環境技術として発展させることができると考えます。			
また、自然と共生するところや、食文化を持つ日本人にはピッタリとマッチするのではないのでしょうか。 ホームページでは、生態系循環の具体的な方法として、浄化槽の技術を用いた汚泥処分方法（汚泥の固まりを浄化槽、コンポスト（浄化槽）を提示し、これをもとに海岸浄化槽への施肥をおこなう“海岸施肥プラント”のアイデアを載せています。これは、現在日本の各地の海岸で進んでいる有機物回収の活動を行なっている NPO の方に見ていただいたところ、今後の活動の参考にしたいとお返事を頂きました。いろいろな人にこのホームページを見ていただきたいたが、特に興味を示してもらったのは、このように実際に有機物回収に取り組んでいる方や、汚水処理の現場の方など直接現場に携わっている方々でした。こうした方々の行動こそが、実現への原動力になるものと思います。			
この他にも、汚水処理施設放流先の生態系の状態や施設に発生する各種のプランクトン等の調査、実験なども行なっており、続々と新発見が出てきています。新たな成果や発見がまたより次第、逐次ホームページにUP していって予定です。			

エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） 下水道の新たな役割として、生態系活性化を提案しています。これにより、具体的な価値として、国土の生物多様性や水産資源の確保、新たな観光資源の開発などの見込め、これらに付随する環境プラント産業での仕事、雇用の創出の効果も期待できます。個人のホームページという点で、広範の力に小さいものですが、会社や組織に縛られることなく、内容を自由に作成、更新ができ柔軟に「速・動く」ことができるため、全く新しい分野を開いていくには意外と適しているかもしれません。特にスピードの点においては、アイデアさえあれば個人のホームページが最も早い展開が可能だと思います。 ホームページ作成に当たり留意している点は、事実をそのまま描くこと、誰もが納得できるようにすること、です。眉唾ものだったり、美観性に欠けるのでは、誰も興味を示してくれません。“これなら、もしかしてできるかも”と感じて頂ければ幸いです。		海岸施肥プラント汚泥分解タンク 図解 汚泥を堆肥にする 汚泥を	
--	--	--	--

エントリーする団体名の名称 メタウォーター株式会社 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大瀬良 栄一（経営企画本部 広報部） TEL. 03-6853-7317 E-mail: oosera-eiichi@metawater.co.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大瀬良 栄一（経営企画本部 広報部） TEL. 03-6853-7317 E-mail: oosera-eiichi@metawater.co.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大瀬良 栄一（経営企画本部 広報部） TEL. 03-6853-7317 E-mail: oosera-eiichi@metawater.co.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大瀬良 栄一（経営企画本部 広報部） TEL. 03-6853-7317 E-mail: oosera-eiichi@metawater.co.jp	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大瀬良 栄一（経営企画本部 広報部） TEL. 03-6853-7317 E-mail: oosera-eiichi@metawater.co.jp
表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康
表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康
表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康	表者氏名 代表取締役社長 木田友康